

# 市民病院だより

受けましよう、乳がん検診 ～初めましよう～

マンモグラフィ撮影認定技師

菅原 宏美

今年から小城市市民病院の放射線科で勤務させていただいています。出身は神奈川県伊勢原市で、山が近くにある小城市にとっても似た環境で育ち、佐賀県に来て丸8年になります。

空気も食べ物もおいしい佐賀県ですが、乳がん死亡率がとて高いのをご存じですか。国立がん研究センターによると2012年は全国ワースト1位、2014年はワースト2位です。現在、日本女性の乳がん死亡者数は13,000人を超え、1955年の約7倍まで増加しました。乳がんにかかった人の約30%が亡くなっています。

日本女性の乳がん罹患率は、12人に1人といわれています。最近、30代後半から急激に増

加し、40代後半にピークになり、

60代前半で再びもう一つのピークがやってくる傾向があるようです。欧米では8人に1人といわれていますが減少しています。

早期の乳がんには自覚症状がなく、触っても分からないため画像診断でないと発見できません。触って分かるしこりは約2cmといわれています。1cmのしこりは約1年で2cmの大きさになる場合があります。そのため、自覚症状がないうちの定期検診が重要です。

早期の乳がんが見つかった場合、しこりが2cm以下なら10年生存率は90%です。生命が守られるだけでなく、乳房やわきの下のリンパ節を残すことができたり、化学療法を行わずに済む可能性が高くなります。また、治療期間の短縮や治療費の軽減、

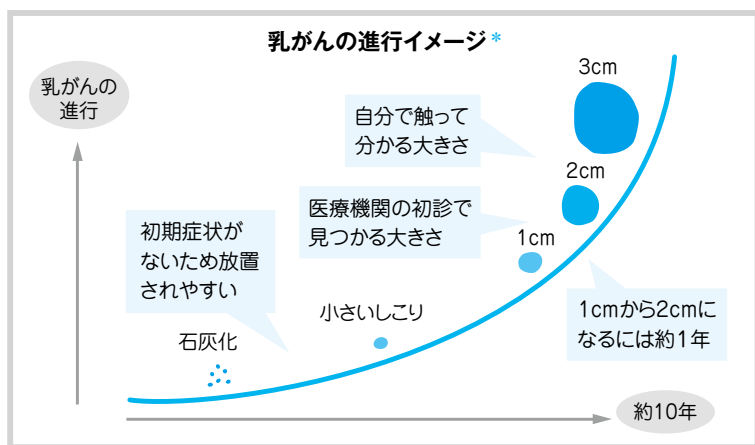
治療後の社会復帰が早くなるなど多くのメリットがあります。しかし、しこりが2cmより大きくなると再発率が高くなり、10年生存率もⅣ期で25%、乳房温存も難しくなり、治療期間も長く、費用もかかります。

乳がん検査を受けると、通常受診者の6～9%の人に精密検査が必要と診断されます。精密検査を受けた人の中で、乳がんと診断されるのは約4%です。精密検査が必要と言われたら、必ず専門の医療機関を受診ましよう。

ピンクリボン運動をご存じですか。乳がんの早期発見、早期診断、早期治療を推進する運動で、2000年からスタートしました。調査によると、「マンモグラフィの認知率」は92.6%と飛躍的に高くなりました。しかし、乳がん検診受診率は3割程度にとどまっています。今後はピンクリボン運動を乳がん検診の受診行動に結び付ける必要がある

と考えられています。昨年は北斗晶さんや生稲晃子さんなどの有名人が乳がんを公表された影響もあり、多くの人が検査に来られました。

今回だけに限らず、最低でも2年に1回は定期的に検査を受けて、2年以上空けないようにしましょう。そして、大切な家族のためにも、ぜひ定期的に乳がん検診を受けましよう。



\*乳がんの増殖スピードの違いでこの進行イメージは変わります

出典「ピンクリボンと乳がんまなびBOOK ~福田慶(著作)~」

## お知らせ

### 4月より婦人科診療が拡充しました。

毎週月～金曜日の午前・午後診療を行っています。

【問合せ】小城市市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>